

道徳学習指導案

海田町立海田小学校
指導者 T1 東 真由美
T2 若尾 賢介

- 1 日時 平成25年11月13日(木)
- 2 学年 第3学年 男子18名 女子16名 計34名
- 3 主題名 働くよろこび(内容項目 4-(2))
- 4 資料名 「お母さんとの約束」(出典:文溪堂「4年生のどうとく」)
- 5 主題設定の理由

【児童の実態】

本学級の児童は、学級での当番活動・係活動などの決められた活動内容を行うことができる。学級の傘立てを友達と相談して進んで整頓したり、みんなのためにできることはないかと考えたりして活動する児童もいる。その一方で、自己中心的な考えが先立ち、時間のかかる仕事を後回しにしたり、好きでない仕事を人任せにしたりする場面もみられる。

1学期のアンケートでは、「自分が暮らす地域のために何かしたい」91%、「今住んでいる地域の行事に参加しようと思う」81%の児童が肯定的な回答をしている。また、79%の児童が「今住んでいる地域の清掃などのボランティア活動に進んで参加しようと思う」と回答をしていたが、「空き缶等散乱ごみ追放キャンペーン」には、35%の児童の参加であった。地域やみんなのために何かしたいという気持ちや意欲はあるが、自分とのかかわりで道徳的価値をとらえたり自分なりに道徳的価値を発展させたりすることへの課題がある。

【主題について】

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の指導内容4-(2)「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く」をもとに設定したものである。

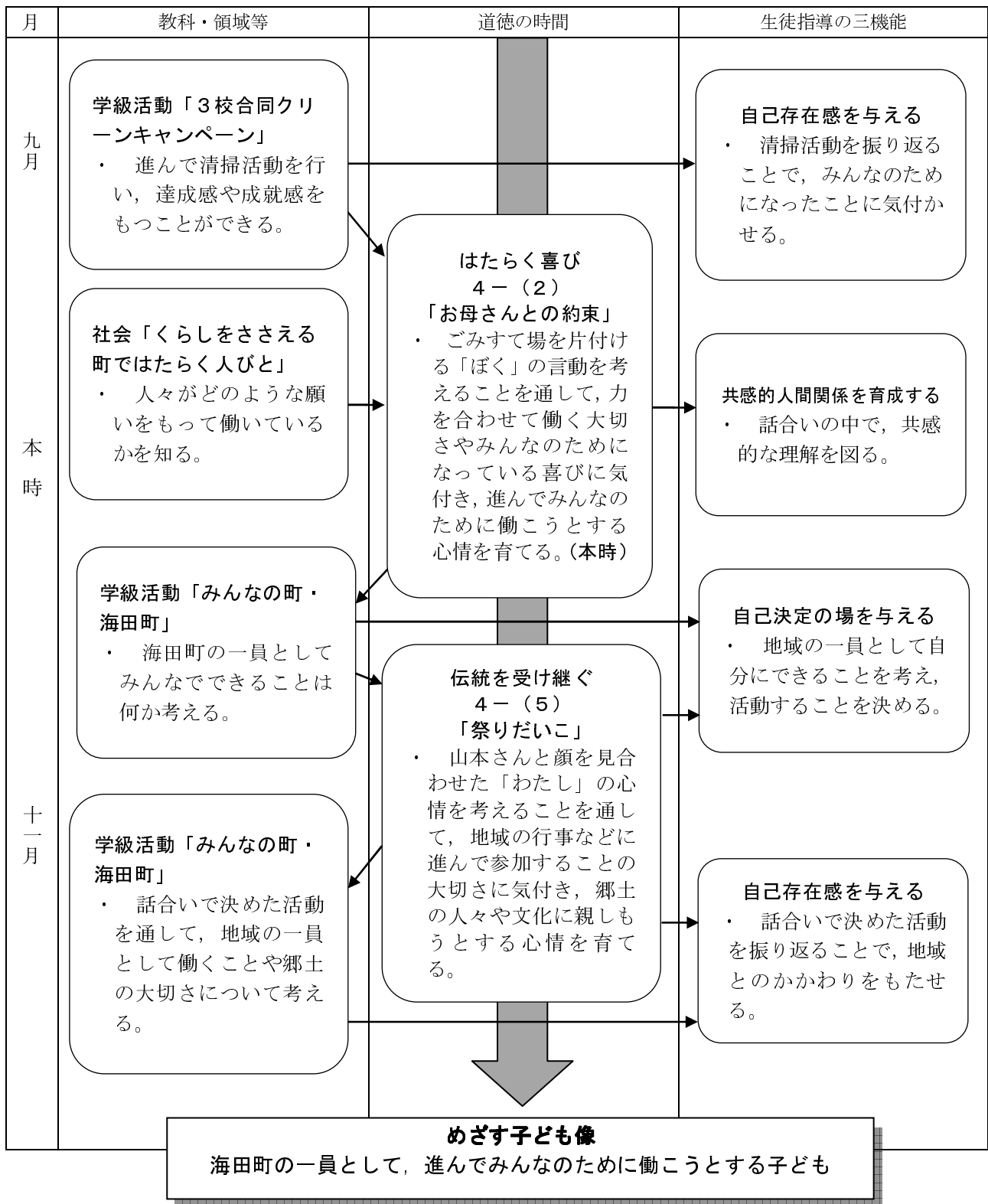
中学年のこの時期は、家庭や学級の中で、少しずつ受けもつ仕事や活動が広がってくる。健全な勤労観を培うためには、働くことの楽しさや喜びの体験を多く積み、自分の役割を果たし、力を合わせて進んで働くとする態度を育てることが大切になる。

本資料は、もうすぐ赤ちゃんを産むお母さんとの約束で朝のごみ出しを引き受けた「ぼく」が主人公である。義務感からごみ捨てをしていた「ぼく」が、散乱しているごみ捨て場を自ら進んで片付け、手伝ってくれるおばあさんの姿を通して、みんなのために働く喜びを味わうという内容である。義務感のように思っていた仕事や、やがて家族のためという意識を超えて、人々のために奉仕する態度に成長する「ぼく」の心情に共感することができる資料である。

【道徳的実践力を高めるための工夫】

- 事前—— ・ 「3校合同クリーンキャンペーン」活動の事前事後に、活動への思いを書いたり、「心のノート」P.78～P.79に記入したりしながらみんなのために働こうと意識させる場を設ける。
- 資料提示—— ・ 児童の意識が途切れることなく道徳的価値に迫れるように、場面を区切りT1、T2で役割を分担しながら資料提示を行う。
 - ・ 場面絵やキーワードを板書に効果的に配置する。
- 展開前段—— ・ 身体的・精神的な辛さを理由にしてお母さんとの約束のごみ捨ての仕事に対して消極的な「ぼく」の心情にしっかりと共感させる。
 - ・ 積極的に片付けた「ぼく」の心情の変化を考えさせることで、力を合わせて人々のために行動する心地よさやみんなのために働くことの大切さに気付かせる。
- 展開後段—— ・ 体験活動の写真や「心のノート」P.78～P.79を用いながら、自分の経験を振り返らせる。
- 終末—— ・ 地域の人のお話を聞くことで、勤労に対する道徳的価値について考えを深め、進んでみんなのために働こうとする心情を高めさせる。
- 事後—— ・ 学級活動「みんなの町・海田町」を通して、地域のため、みんなのためにできることを考え、実践する場を設け、道徳的価値を自分なりに発展させる。

6 他教科・領域との関連



7 本時のねらい

ごみ捨て場を片付ける「ぼく」の気持ちを考えるを通して、力を合わせて働く大切さやみんなのためにになっている喜びに気付き、進んでみんなのために働こうとする心情を育てる。

8 準備物

場面絵 短冊 ワークシート 写真

9 展開

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の意識の流れ	指導上の留意点 (○) と評価 (*)
導入	1 資料への興味をもたせる。 ○ 家でどんなお手伝いをしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食器運び ・ 風呂掃除 ・ 玄関掃除 	○ 事前にとったアンケート結果を伝えることで、資料への興味をもたせる。
展開 (前段)	2 資料「お母さんとの約束」を聞いて、「ぼく」の心情を中心に話し合う。 ○ 両手に重いごみ袋を持ってごみ捨て場に行く「ぼく」は、どんな気持ちでしょう。 ◎ ごみ捨て場の散らばっているごみを片付けている時、「ぼく」はどんなことを考えていたでしょう。 ○ ぼくの弟が生まれてからも、ごみ捨てを手伝い、時々ごみ捨て場を片付けながらぼくは、どんなことを思っているでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重いなあ、やめたいなあ。 ・ みんなが見ている、恥ずかしいなあ。 ・ やると言わなければよかった。 ・ でも、お母さんが大変だからやらなくてはいけないなあ。 ・ ごみを集める人が大変だ。 ・ 次に使う人が困るだろうな。 ・ きたない汁も出るけど、きれいにしよう。 ・ じろじろ見られても関係ないよ。 ・ おぼあさん、ぼくだけで大丈夫だよ。 ・ 年をとって大変なのに、手伝ってくれる人がいるんだ、うれしいなあ。 ・ お母さん、これからもぼくにまかせてね。 ・ みんなのためにこれからもがんばろう。 ・ ごみ捨て場は、いつもぼくがきれいにするよ。 ・ みんなのためだけど、ぼくにとっても気持ちがいいものだな。 	○ 学習を通して、場面状況を把握しやすくするために、主に T1 は資料を読み聞かせ、T2 は場面絵の提示や板書を行う。 ○ 身体的・精神的な辛さを理由にしてごみ捨てをやめたい心情と、お母さんと約束した仕事を続けようとする心情の間で葛藤する「ぼく」に共感させる。 ○ 手伝ってくれたおぼあさんに後を任せればよいのに、また、「ぼくがするからいいよ。」と言って積極的に片付けたのはなぜかと補助発問を行うことで、「ぼく」の心情の変化や力を合わせて働く心地よさや大切さに気付かせる。 * 人々のために行動することの大切さや心地よさに気付くことができたか。 ◎ 道徳的価値について深く考えている場面で、「働くことに対する思いが変わってきたね。」「近所の人や次に使う人のことを考えているね。」「みんなで力を合わせると一人でしている時に感じられない喜びがあるんだね。」 ○ 「ぼく」の心情をワークシートに記入することで、一人一人に自分の考えをしっかりともたせる。 ○ 赤ちゃんが生まれてからも、ごみ捨ての仕事が続けた理由を考えさせることで、成就感や満足感が進んで働くことの意欲につながっていることをとらえさせる。
展開 (後段)	3 道徳的価値について、自分の経験を振り返る。 ○ みんなのために進んで働いて「うれしかった。」「気持ちよかった。」と思ったことはありませんか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公園でお菓子のごみが散らかっていたから片付けたこと。 ・ 学級の傘立てを友だちと整頓したこと。 ・ 瀬野川の地域清掃で、みんなでごみを拾ったこと。 	○ どんな気持ちでやっていたのかも合わせて発表させる。 ○ 振り返りにくい時には、体験活動の写真や心のノートを用いながら、これまでの経験を振り返る。 (自己存在感を与える)
終末	4 地域の人のお話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなのために暑かったけどがんばってよかったな。 ・ これからも、みんなのために働いていきたいな。 ・ 地域の人のために何ができるかな。 	○ 地域の人のお話を聞くことで、進んでみんなのために働こうとする心情を高める。 (自己存在感を与える) * 自分とのかかわりの中で道徳的価値をとらえ、みんなのために働いたよさを振り返ることができたか。

★めざす子どもの姿
 力を合わせて働く大切さやみんなのためになっている喜びに気づき、進んでみんなのために働いていこうと思えることができる。

お母さんとのやくそく

ごみすての仕事

赤ちゃんを産むまで

両手に重いごみぶくろ

重いなあ
やめたいなあ。
恥ずかしいな。
言わなければよかった。
お母さんが大変だからやらなくては。

ごみすて場

ちらばっているごみを片付けている

おばあさん、ぼくがするからいいよ。

場面絵
ごみすて場を片付ける
ぼくとおばあさん

次の人がこまるだろな。
集める人が大変だ。
きたないけど、きれいにしよう。
じろじろ見られても関係ないよ。
ぼくだけで大丈夫だよ。
手伝ってくる人がいるんだ、うれしいな。

絵
ぼくの顔

弟がうまれてからも
まかせてね。
みんなのために。
ぼくがきれいにするよ。
ぼくにとっても気持ちがいい。

みんなのためにはたらく

気持ちがいい
大切なこと
よろこび

絵
散乱した
ごみ

場面絵
登校中にごみを
捨てに行くぼく

ぼく